貫して居つたからである

（完）

短編　獨逸教育話

其一、北風

仁壽堂主人

北風が或時散歩に出かけました、しかし北風はぜんたいいたづらものなんですから、いろ〳〵ふらちな事をいたしまして、庭園へまいりましては薔薇の花をとり百合を莖から折り杏をちぎり梨をば泥の中へほうりだしました、田畑へまいりましては一層らんぼうをしまして、穂をみじんにしてしまい又た能く熟しませぬ林檎をふりをとし枝葉をむしりてふりまきました古いよわつた木はつきころばして根こぎにいたしてしまいました。

そこで、いたづらされた者たちは風王の所へ訴へてまいりました、此王は空氣城にふすまいでして隨意に風をばつかまへてをいたり、又は出て行かしたりする方なんです、皆々のものたちは粗暴な北風がいたしましたことがらで、中にも庭園や田畑がいたづらされて大そうこまつてをりますことを申し出ました、そこで王樣が北風をよびだして皆のものゝ申し出はほんとうかどふかたづねられました、北風は現在いたづらした庭園や田畑がみな〳〵目の前に居ることですから言ひけすことが出來ませぬ。そこで王樣が『なぜおまへは左樣なことをしたのか』？　北風『へー私はわるい量見ではなかつたのです只薔薇や百合や杏やなどゝ遊ばふと思ひましたのでして私はそんな、ひどひことをしようとは思ひませんでした』と答へました、そこで王樣が『そーか、おまへは左樣な、そゝつかな手あらものならこれから外へだすことはでき

んから夏中はおまへをおしこめて置かねばなりません、冬になつて花も葉も菓物なぞもうなんにも無いよふになつた時には外へ出てゆきあそんでもよろしい、わたしか目にはおまへは氷か雪が相當で花や菓物なぞはむかぬと思へる』と申しわたされました。

考へもの

前號の解

(一)可愛い一人子の旅立とかけて
　餅の入らないお汁粉と解く
　心は　餡汁(案じる)許り

(二)曲つた杉の木とかけて
　飛脚と解く
　心は　走らにやならぬ(柱にやならぬ)

親馬鹿といふを讀みて

ふみ子

私は毎日子供を世話して居りますから、特にこの婦人とこどもといふ雜誌を愛讀いたします。先日も第十號の家庭欄にヒッポ、タモス、アイランド氏が親馬鹿と題して、子供の行爲について記されてあつたのを讀み、また、其扱い方に付いての問を出されてあつたのを見まして非常におもしろみを感じました、私はヒッポ、タモス、アイラン